



六花出版

Rikka Press



電子書籍コレクション

六花出版は、歴史的に貴重な学術図書や復刻版を刊行している出版社です。経験豊かな編集者によって発掘された歴史的に貴重な資料や歴史的に忘れ去られそうな資料を、EBSCOのプラットフォームで電子書籍としてご活用下さい。

タイトル一覧(2021年1月現在)



タイトル	精神病患者と私宅監置		
監修・執筆	橋本明		
出版年	2011	価格 (1 アクセス)	¥4,000
ISBN	9784905421085	価格 (3 アクセス)	¥6,000

日本の精神医療史にとってきわめて重大な問題である「私宅監置」——すなわち患者の家族が警察に届けて自宅に患者を監禁してきたこと——についての初めての実証的研究。患者・家族・地域社会の視点から精神病患者と看護者・地域・病院・行政の問題をとらえ直す。精神医療史・看護史・社会福祉史研究に必読の好著！



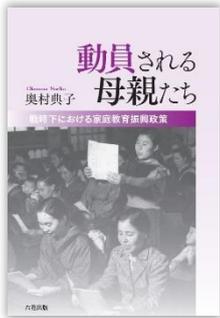
タイトル	「女教員」と「母性」——近代日本における〈職業と家庭の両立〉問題		
監修・執筆	齋藤慶子		
出版年	2014	価格 (1 アクセス)	¥4,000
ISBN	9784905421689	価格 (3 アクセス)	¥6,000

「女教員」たちは、男性教員と同等に働いているという誇りと「母性」という女性教員の特質を強調することの矛盾をかかえていた。現在の「育児時短」につながる「部分勤務制」の提案は、ほんとうに「両立」を可能にして女性教員の生活を豊かにしたのか。低賃金の女性教員を確保しようとする帝国教育会の思惑、むしろ地位が低下するのではないかと恐れる現場の女性教員の思いを全国大会や地域の女性教員会の記録などから読み解いた著。



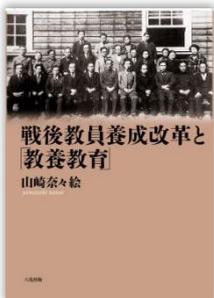
タイトル	戦後女性教員史 ——日教組婦人部の労働権確立運動と産休・育休の制度化過程——		
監修・執筆	跡部千慧		
出版年	2020	価格 (1 アクセス)	¥4,800
ISBN	9784866170817	価格 (3 アクセス)	¥7,200

1960年代から70年代を中心とした、日本教職員組合（日教組）婦人部の労働運動に着目し、その運動の過程を丁寧に追ひ、当時の女性解放論や母性保護論争を絶えず参照した組合員の実像を明らかにする。



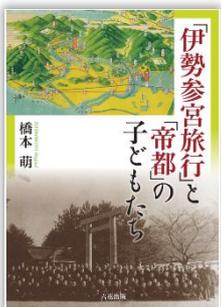
タイトル	動員される母親たち ——戦時下における家庭教育振興政策		
監修・執筆	奥村典子		
出版年	2014	価格 (1 アクセス)	¥4,000
ISBN	9784905421696	価格 (3 アクセス)	¥6,000

戦時下、学校・家庭・地域社会を舞台に「家庭教育」の振興が追求された。母親を中心とした女性を教化・組織した、振興政策の本質は何だったのか。国が構想した家庭教育の内実、そして各地で展開した「母の講座」「母親学級」「母の会」などを検証し、その実態を明らかにする。戦時下の教育と女性運動の問題を問いかける書！



タイトル	戦後教員養成改革と「教養教育」		
監修・執筆	山崎奈々絵		
出版年	2017	価格 (1 アクセス)	¥5,200
ISBN	9784866170992	価格 (3 アクセス)	¥7,800

戦後の教員養成改革の実態を、教養教育の変遷から丁寧に検証し描き出した労作。一般教養を重視して「師範タイプ」を克服するという、戦後教員養成の理念は、新制の教員養成系大学／学部が発足にあたり実質を伴っていたのだろうか。教育刷新委員会の議事録や各大学の沿革史はもちろん、IFEL や大学基準協会などの動向、戦後初期の師範学校、再編後の教員養成系大学のカリキュラムや教員組織といった細部までを検証し、その実相に迫る！



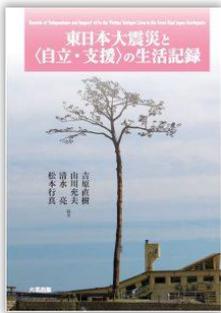
タイトル	「伊勢参宮旅行」と「帝都」の子どもたち		
監修・執筆	橋本明		
出版年	2020	価格 (1 アクセス)	¥4,000
ISBN	9784866170923	価格 (3 アクセス)	¥6,000

1930年代に東京市を中心に行われた伊勢神宮参拝を主な目的とした小学校児童の修学旅行（参宮旅行）を研究対象に、その拡大から終焉までの構造をとらえ、「大正新教育」の実践が波及していた1920年代以降の実践場面における教育的意味を検証する！



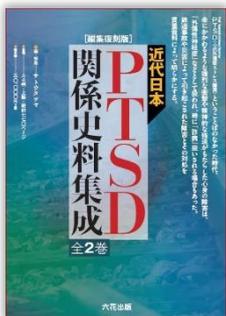
タイトル	総力戦体制下の〈教育科学研究会〉		
監修・執筆	金智恩		
出版年	2020	価格 (1 アクセス)	¥4,800
ISBN	9784866170916	価格 (3 アクセス)	¥7,200

子どものための教育とは何か——本書は、一九三〇年代の総力戦体制下で学制改革に真正面から取り組み、常に文部省の教育政策に対して批判意識を持った教育科学研究会（教科研）とは何かをテーマに、国策研究（同志）会や教育改革同志会の議論も比較検討しながら、その理論の全容の解明に取り組んだ意欲作！



タイトル	東日本大震災と〈自立・支援〉の生活記録		
監修・執筆	吉原直樹, 山川充夫, 清水亮, 松本行真		
出版年	2020	価格 (1 アクセス)	¥8,000
ISBN	9784866170978	価格 (3 アクセス)	¥12,000

大災害から九年後の「いま」を刻み、記憶の彼方に埋もれさせないために！東日本大震災から九年……この間の国や県、当該自治体が考える復興と、被災者・避難者の考える復興とのあいだには大きな〈落差〉がある。本書は、被災者にたいする支援と自立のありようをトータルに捉え、「人間の復興」という願いを込めて、その状況を明らかにするモノグラフ〈生活記録〉第3弾！



タイトル	近代日本PTSD関係史料集成		
監修・執筆	サトウタツヤ		
出版年	2019	価格 (1 アクセス)	¥70,000
ISBN	9784866170565	価格 (3 アクセス)	¥105,000

PTSD (心的外傷後ストレス障害) ということばのなかった時代、命にかかわるような強烈な衝撃や精神的な強迫がもたらした心身の障害は、「外傷性神経症」などとして扱われ、時に「詐病」扱いされる場合もあった。鉄道事故や災害によって引き起こされた障害とその対処を貴重資料によって明らかにする。



タイトル	戦後日本の道徳教育の成立 ——修身科の廃止から「道徳」の特設まで		
監修・執筆	佟占新		
出版年	2019	価格 (1 アクセス)	¥4,200
ISBN	9784866170770	価格 (3 アクセス)	¥6,300

「特別の教科 道徳」が、2018年4月より小学校において、さらに2019年4月からは中学校においても開始される今、近年の道徳の教科化をめぐる議論の原点ともいえる、1945年の敗戦から1959年における道徳教育の成立過程を考察！



タイトル	アクティブラーニングで学ぶ震災・復興学 ——放射線・原発・震災そして復興への道		
監修・執筆	庄司美樹, 新里泰孝, 橋本勝		
出版年	2020	価格 (1 アクセス)	¥1,500
ISBN	9784866171005	価格 (3 アクセス)	¥2,250

東日本各地に甚大な被害を与えた東日本大震災は、地震・津波のほかに原子力発電所の崩壊をももたらすという、世界的にも類を見ない深刻な状況を引き起こした。本書は 未曾有の大災害を単に知識として学習するのではなく、いかに自分の問題として考え、未来につなげるかをアクティブラーニングの手法を通して主体的に学ぶためのテキストである。！



タイトル	東日本大震災と〈復興〉の生活記録		
監修・執筆	吉原直樹, 似田貝香門, 松本行真		
出版年	2017	価格 (1 アクセス)	¥8,000
ISBN	9784866170275	価格 (3 アクセス)	¥12,000

「東日本大震災」から6年。被災者が望む「心の復興」は進んでいるのか…近年の自然災害に向けての公的な復興計画は、被災地の原形復旧・復興を乗り越えて、地域が自立的に発展していける「創造的復興」を目指している。こうした構想が東日本大震災の現実的な過程で実現できているのか…甚大な被害から導きだされた教訓をもとに、来たるべき巨大複合災害に対する防災・減災・縮災の課題と展望を論じた〈モノグラフ〉集、第2弾！



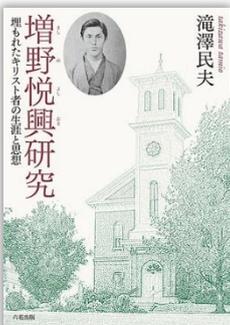
タイトル	東日本大震災と被災・避難の生活記録		
監修・執筆	吉原直樹, 仁平義明, 松本行真		
出版年	2015	価格 (1 アクセス)	¥8,000
ISBN	9784905421801	価格 (3 アクセス)	¥12,000

私たちは被災地が見えているのか…… 「東日本大震災」から4年。被災した多くの人々の困難を乗り越える生活者としての様相を、被災者や被災地に寄り添いながら、被災直後から現在に至るまで、さまざまな分野の研究者によってまとめられた〈モノグラフ= 調査報告集〉！



タイトル	戦後 夜間中学校の歴史		
監修・執筆	大多和雅絵		
出版年	2017	価格 (1 アクセス)	¥3,000
ISBN	9784866170343	価格 (3 アクセス)	¥4,500

十五歳を過ぎてもお「学びなおしたい」生徒と、それを応援した人々を通じて、その歴史的経緯と意義を、学齢超過者の教育を受ける権利を中心に考察。現在もなお全国8都府県に31校ある夜間中学校が、戦後、社会的には必要とされながらも教育制度上は明確な根拠を持たず脆弱な基盤の上に存在し、かつその制度的あいまいさが政府によって利用されてきた事実と、その不備を放置してきた実態を明らかにする。



タイトル	増野悦興研究 ——埋もれたキリスト者の生涯と思想		
監修・執筆	滝澤民夫		
出版年	2019	価格 (1 アクセス)	¥8,000
ISBN	9784866170787	価格 (3 アクセス)	¥12,000

信仰の内面性を重視し正統派教会ともユニテリアン、社会主義的キリスト教とも一線を画して独自のキリスト教思想を探究した増野悦興(ましのよしおき)。近代日本のキリスト教受容の過程における「異端児」であり、かつ川越高校創業者として自治自修の教育を実践した教育者でもあった。日本近代のキリスト教史の結節点に存在しながら、埋もれていた彼の思想を著者渾身の筆で浮かび上がらせる。



タイトル	監獄のなかの子どもたち ——児童福祉史としての特別幼年監、感化教育、そして「携帯乳児」		
監修・執筆	倉持史朗		
出版年	2016	価格 (1 アクセス)	¥4,200
ISBN	9784866170220	価格 (3 アクセス)	¥6,300

現代の社会福祉あるいは司法は、非行や犯罪にかかわってしまった子どもたちにどれほどに高い理念に基づいた、有効な実践を展開しているのか。犯罪幼少年・非行少年への処遇は、処罰として行うのか、教育をもって対するのか。というきわめて今日的な問題に、一世紀以上まえに特別幼年監、感化教育によって取り組んだ先駆者たちの挑戦に学ぶための意欲作！



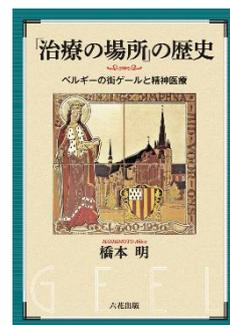
タイトル	朝鮮人学校の子どもたち ——戦後在日朝鮮人教育行政の展開		
監修・執筆	松下佳弘		
出版年	2020	価格 (1 アクセス)	¥4,000
ISBN	9784866171036	価格 (3 アクセス)	¥6,000

本書は、一九四五年の敗戦から一九五五年までの時期を対象に、在日朝鮮人の学校教育を規定してきた行政の特徴を、占領軍・日本政府・地方自治体そして朝鮮人団体など様々な主体の認識や交渉過程に即して解明するものである。日本の植民地支配から脱し「自主的」な教育を求める在日朝鮮人の運動に、「公費」をたてに管理運営や教員人事、教育内容に踏み込もうとする日本政府、そしてそのはざまに置かれた地方行政機関という三者のせめぎ合いを、緻密な論証で明らかにする。特に京都府・京都市を中心に、東京都・神奈川県・愛知県・大阪府・兵庫県・岡山県・広島県・山口県の各自治体に残された史資料を発掘し、年代を追って変容する行政の対応を検証した力作!!



タイトル	教育史研究の最前線 II ——創立 60 周年記念		
監修・執筆	教育史学会		
出版年	2018	価格 (1 アクセス)	¥2,500
ISBN	9784866170428	価格 (3 アクセス)	¥3,750

創立 50 周年を期して刊行された「教育史研究の最前線」(2006 年) 刊行から 10 年。学会創立 60 周年の記念出版として、気鋭の研究者 25 名による最新の教育史研究の動向や課題を提示する教育史研究の入門書第 2 弾!!2000 年以降に刊行された数百点に及ぶ教育関係図書を、さまざまな角度から分類しテーマや領域を選定、それらをもとに設定された全 10 章の論考は、これからの教育史研究へ関わる研究者・学生への大いなる羅針盤として最適である。



タイトル	「治療」の場所の歴史 ——ベルギーの街ゲールと精神医療		
監修・執筆	橋本明		
出版年	2020	価格 (1 アクセス)	¥4,800
ISBN	9784866171111	価格 (3 アクセス)	¥7,200

精神病患者の「治療の場所」=ゲールにおける家庭看護の歴史を再検討し、近未来の精神医療のあり方を探る好著!さらに、「日本のゲール」と紹介されてきた京都・洛北の岩倉を、国際的な視点から捉え直す。

